令和５年度第２回富山県総合教育会議　議事録

１　日　時　　令和６年２月１２日（月・祝）１６：３０～１７：３９

２　場　所　　県庁４階大会議室

３　出席者　　富山県知事　新田　八朗
富山県教育委員会
教育長　荻布　佳子
委　員　坪池　宏
委　員　村上　美也子
委　員　大西　ゆかり
委　員　黒田　卓
委　員　牧田　和樹

４　事務局出席者

経営管理部長	南里　明日香
経営管理部次長	坂林　根則
理事・教育次長	水落　仁
教育次長	中﨑　健志
参事・教育企画課長	福島　潔
教育参事・県立学校課長	番留　幸雄
学術振興課長	吉田　徹

他関係課職員数名

５　議　事
・県立高校教育振興検討会議について（報告）
・公私立高等学校連絡会議について（報告）

６　会議の要旨
司会が開会を宣し、新田知事の挨拶後、富山県総合教育会議運営要領第３条並びに知事の指名に基づき、以後の議事については南里経営管理部長が進行した。

（南里部長）
・事務局から資料１～３に従い説明する。

番留教育参事・県立学校課長が、資料１「県立高校教育振興検討会議の検討状況」、資料２「県立高校教育振興に関する市町村との意見交換会、県立高校教育振興フォーラムでの主なご意見」について説明した。
続いて、吉田学術振興課長が、資料３「令和５年度第２回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果」について説明した。

（南里部長）
・ただいまの事務局の報告及び説明について、それぞれご意見をいただきたい。

○委員からの意見

（牧田委員）
・教育のめざすところとは、世のため人のために役に立つ人材を輩出し、よりよく生きられるようにすることである。教育を通して、正解のある問題を解けない人を正解のある問題を解けるようにする、正解のある問題を解ける人を正解のない問題を解けるようにすることで生きる力を身に付けさせる。
・日本の教育制度は単線型である。単線型における高校の役割は、義務教育と高等教育を繋ぐことであり、その双方の影響を受けやすい。義務教育課程における学力等の格差を、高校段階で縮めることはできないし、高校卒業レベルという修得内容は担保されていない。したがって、高校教育課程を修得できていない子どもたちが一定数いる。その中で生きる力の育成をどう実現するかが重要であり、こうした現状を前提に高校再編を議論すべきだと思う。
・このことから、高校再編で大事な点は、子どもたちが高校での３年間をいかに有意義な時間と捉えることができるか。これはまさに知事が提唱されている、ウェルビーイングの考え方に繋がる。
・それを実現するために、普通科系の高校をたくさん作って、正解のある問題を解けない人を正解のある問題を解けるようにする、正解のある問題を解ける人を正解のない問題を解けるようにするというカテゴリーに応じて提供していくことだ。
・グラデュエーションポリシーやアドミッションポリシーを定量的に、具体的に明確に示すべきだと思う。また、とりわけスポーツに秀でた子どもたちのために、例えば、スポーツ強化校を指定するのも１つだと思う。
・公私比率を撤廃し、県立高校も含め、切磋琢磨するのが理想であると思う。
・規模に関しては、同じ学び舎で学んだ同級生の数を最低限確保しないと、子どもたちがかわいそうだと思う。
・これから県外の私立学校との競合は十分に考えられ、バカロレア等の特色ある中等教育学校を設置することは価値があるのではないか。
・再編後の各校の設置場所は、子どもたちが通いやすい場所であることが優先されるべき。我が地域に学校を、とおっしゃるが、現実に子どもが減っている中で学校だけ増やすことはできない。
・義務教育では、基礎力をつけさせてほしい。市町村教育委員会の中で、勉強やいろい

ろなことをさせて高校へ上げる、というスタンスは堅持していただきたい。
・高等教育機関については、富山大学と富山県立大学を有効に活用すべき。とりわけ県立大学は県内外の子どもたちが憧れて入学するような大学であるべき。ＡＩＵ（公立国際教養大学）のような大学を目指してほしい。
・県内大手企業は出身大学で採用しがちで大学４年間で学んだことが生かされていないことが多い。県立大学が注目を浴び、県外から学生がどんどん来て、県内大手企業が県立大学の学生を取らなければ、となればよい。

（黒田委員）
・小規模、中規模、大規模、という言葉が使われているが、これはどのくらいの学級数を想定しているのか。県内では８学級あれば大規模というイメージかと思うが全国的に見れば、８学級の高校はたくさんある。
・目指す学びを実現するには、専門的なこと、したいことを突き詰められる設備、それを指導できる先生、さらに、多様な背景や能力を持った友達と協働的に学べる環境などが必要である。
・たとえば普通科、商業科、工業科が一つになったような学校を想定してもよい。また、小規模が適している生徒もいると思うので、そうした高校など、思い切っていくつかのタイプの学校にする。

（事務局）
・事務局としては、４学級未満が小規模校、４、５学級が中規模校、７、８学級が大規模校と考えている。では６学級はというと、現状では６学級でも大きい方になりつつある。９学級や 10 学級はなかなかなく、完全に大規模校になる。どこまでが中規模校でどこまでが大規模校かというところが、はっきりしにくいところもある。８学級までのバランスのいい規模の高校を置く、というようなことから中規模校や大規模校という表現を使用している。

（大西委員）
・個人的には、高校の普通科や総合学科は、中規模以上ある方がよい。自律性を獲得していく高校時には、大勢の生徒や先生方の中で、多様な考えに触れる機会が多いこと、専科教員の配置や多くの部活動があることがよいと思っている。
・教育関係者からのアンケートに小規模校がよいという回答が多い。小規模校もよいところがたくさんあるのだと思う。
・６クラス、またはそれ以下の学校だけというのではなく、難しいとは思うが、８クラス以上ある大規模校は県内に１校か２校あってもよいのではないか。
・生徒減への対応は、ダウンサイズしかなかった。活力と魅力のある県立高校を実現するにはこの配置でよいのか、このクラス数でよいのか、検討が必要ではないか。

（村上委員）
・スポーツが好きな子どもがスポーツを極めたり、学業を切磋琢磨したい子が思うよ

うな環境で学習を続けたりするためには、ある程度の規模というのは大切である。
・全体の人口が減るので教員を目指す方も同時に減っていく。さまざまなことに対応できる学校を維持していくことを考えると、たくさんの小規模校を作るより、大規模校を作り、小規模校の特徴を持ったものをその中に存在させることはできないのか。
・大規模校の中では少し生きづらさを感じている子どもたちや外国人の子どもたちを支援できるようなコースが各学区に１つずつあってほしい。

（坪池委員）
・様々なタイプの学校は、それぞれ選択肢を広げ、魅力的な教育課程なのだと思う。たとえば、中高一貫教育校は、中学校と高校の教育課程を入れ替えることができるというのがとても魅力的だが、高校の教育内容を早期から学んでいける生徒がどれくらいいるかを考えないと、学校として成り立つのか成り立たないのか、ということになる。都会でそうした生徒を集めることは容易でも、富山県ではどうなのかという視点が必要。
・少子化していく中で、特色ある教育課程に適した子どもたちを集めてくるのは難儀な作業であるが、一方ではニーズもあると思う。特色ある科目を設定、コースを設置、学科を設置、学校を設置など、どういう形で教育を提供するのか、というのが大事。
・規模について、高岡のフォーラムでは、保護者からだと思うが、一定数の生徒がいる学校で育てたい、という発言があった。社会性や社会認識は年齢を重ねるに従って同心円状に拡大していく。高校生になると、友達同士、横の関係から学ぶことが圧倒的に多くなる。手本にしたい人がいる、というのは大規模校ならではのこと。社会性を広げる、社会認識を拡大する等、大規模校は維持してもらいたい。

（荻布教育長）
・規模と学びの中身のバリエーションの掛け算で選択肢を確保したいという考え方自体は、フォーラムや市町村首長との意見交換で、大方ご賛同いただいていると感じている。しかし、少子化の中でそれを実現することの難しさが増しているのは間違いない。
・国際バカロレアや中高一貫等、魅力的であるし、意欲のある子どもたちにとってよい環境だと思うが、富山県で実現できるかどうかをしっかりと見極め、また、中高一貫については、特に市町村とも連携をして検討しなければならないと思っている。
・今ある学科・コースを魅力化していく中で、教員確保や施設設備などの面からも、知事にも後押ししていただきたい。
・小規模校を再編統合の検討対象とする、というところが非常に注目されてしまうが、それが再編のメインではない。今のままの学校を維持するとほとんどの学校が小規模化し、本県の教育が目指すビジョンを達成するための１つのステップと考えると生徒に多様な選択肢を提供できなくなることの問題提起である。あくまでも、子どもたちの生き生きと学べる３年間の高校生活のために考えていきたい。

（新田知事）
・昔と違って今は、富山県にも外国の方が多くおられ、国際化やグローバルな視点は、これからもっと必要になる。国際バカロレアが有名だが、ケンブリッジパスウェイという考え方もある。こちらも併せて、教育委員会には検討してほしい。
・高校再編の議論は丁寧に進めていきたいと考えているが、学科やコースについては、教育委員会にスピード感をもって取り組めるものから検討をすすめてほしい。
・高校再編の議論は、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」から始め、今行っている「県立高校教育振興検討会議」に引き継がれ、今年度、取りまとめが出て、来年度はさらに、この総合教育会議で何度も議論を重ねていきたいと思っている。先月はフォーラムという形で地域の皆さんの声を聞いたが、来年度、総合教育会議の場でも、地域、産業界、保護者代表の方々等より幅広い方々から声を聞かせていただき、その上で議論を進めたいと思うが、いかがか。

（各委員）異議なし

（牧田委員）
・この総合教育会議はもう少しフランクに意見交換する場になればよい。
・我々教育委員は県議会で選ばれているようなので、その役割を明確にし、オブザーバーとの違いを線引きしなければ、と思う。

（新田知事）
・県議会からも、ぜひ幅広い意見を聞いてほしいと言われている。
・次年度は、総合教育会議での検討を進めていくうえで、運営の仕方についての工夫が必要という意見は理解した。

（南里部長）
・最後に、本日の意見等を踏まえ、新田知事より発言いただく。

（新田知事）
・今日は、「県立高校教育振興検討会議」での議論、市町村首長や教育長のご意見、２度にわたる「県立高校教育振興フォーラム」でのご意見などを皆さんと共有することができ、有意義な会議となった。
・「県立高校教育振興検討会議」で年度内に出される取りまとめを受け、来年度はこの総合教育会議で議論を深めていきたい。その際、先ほどお諮りしたとおり、より幅広い方々の意見も伺いながら進めていきたいと思う。
・子どもまんなかの視点に立って、富山県の魅力ある教育環境づくりを皆さんとともに深めていきたい。どうか引き続き、教育委員の皆さんには、ご協力をお願いしたい。

この後、事務局より、閉会の挨拶を行った。

以上。